

家庭内での事故防止について

① 入浴事故について

入浴中の死亡事故は、交通死亡事故よりも多く発生しています。特に高齢者や持病がある方は、リスクが高くなるので注意が必要です。

「お風呂では、次のことに注意しましょう。」

- ・ 水分を十分に摂ってから入浴しましょう。
- ・ 家族に声をかけてから入浴しましょう。
- ・ 食事やお酒を飲んだ直後の入浴は避けましょう。
- ・ 熱い風呂や長風呂は避けましょう。
- ・ 深夜や早朝の入浴はできるだけ控えましょう。
- ・ 浴室と脱衣場の温度差を少なくしましょう。
- ・ 湯船から急に立ち上がらないようにしましょう。



「もしものときは」

- ・ 家族(周囲の人)を呼び、助けを求める。
- ・ 溺れないよう身体を支え、湯船のお湯を抜きます。
- ・ 可能であれば、湯船から引き揚げます。
- ・ 反応(意識)がないときは、救急車を呼びます。
- ・ タオルや毛布を掛けて体を温めます。
- ・ 普段通りの呼吸がなければ、心肺蘇生法を行います。

② 転倒事故について

安全であるはずの家庭内での転倒事故が多く発生しています。特に高齢の方は、転倒リスクが高くなるので注意が必要です。お風呂、居間、階段など家庭内のどこでも事故は起こります。

「事故を起こさないために、次のことに注意しましょう。」

- ・ 階段の上り下りに注意しましょう。
- ・ 段差をなるべくなくしましょう。
- ・ イスを使った作業は注意しましょう。
- ・ 手すりを取り付けましょう。
- ・ 立ち上がるときは、近くのものにしっかりとつかまりましょう。
- ・ 着替えるときは、無理して片足立ちせずに腰掛けましょう。
- ・ 濡れている場所は滑りやすいので気を付けましょう。

秋の全国火災予防運動 11月9日(土曜日)～15日(金曜日)

この運動は、火災の発生しやすい時季をむかえるにあたり、国民一人ひとりが防火の意識を高め、火災の発生を防止するため、全国で実施されます。

今年度の全国統一防火標語は「**守りたい 未来があるから 火の用心**」となっています。

住宅火災の発生を防ぎ、火災から命を守るため「住宅防火 いのちを守る10のポイント(4つの習慣・6つの対策)」を心がけましょう。

【4つの習慣】

- 1 寝たばこは絶対にしない、させない。
- 2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない。
- 3 こんろを使うときは火のそばを離れない。
- 4 コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く。

【6つの対策】

- 1 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する。
- 2 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
- 3 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する。
- 4 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく。
- 5 高齢者や身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
- 6 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。

わたしたちの町から
火災をなくしましょう。



●問合せ 知多南部消防組合消防本部 予防課 ☎64-0121(直通)